

接続期カリキュラムで共有する「10の姿」

小学校でさらに伸ばそう ー幼児期の終わりまでに育てほしい姿ー（10の姿）

- 健康な心と体…見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
- 自立心…自分の力でやり遂げる体験などを通じて自信をもって行動するようになる。
- 協同性…友達と一緒に目的の実現に向けて考えたり協力したりするようになる。
- 道徳性・規範意識の芽生え…してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになる。きまりをつくらたり、守ったりするようになる。
- 社会生活との関わり…家族を大切にしたり、身近な人と触れ合って地域に親しみをもつようになる。遊びや生活に必要な情報を役立てて活動したり、公共施設を利用して、社会とのつながりを意識するようになる。
- 思考力の芽生え…身近な事象から物の性質などを感じ取ったり、予想したりして、多様な関わりを楽しむようになる。
- 自然との関わり・生命尊重…自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。生命の不思議さなどに気付き、動植物を大切にできるようにする。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚…遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しんだりして、興味や関心、感覚をもつようになる。
- 言葉による伝え合い…経験したことなどを言葉で伝えたり、話を聞いたりして、伝え合いを楽しむようになる。
- 豊かな感性と表現…心動かす出来事に触れ、感じたことを表現して、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※それぞれの姿の一部のみを記載しています。これらは到達目標ではなく、一人一人の発達に応じて育っていきます。

1年生のスタートカリキュラム

「スタートカリキュラム」において、入学後の第2週に計画する内容については、以下の例のように内容の工夫をして授業を展開していきます。

	6日目 月	7日目 火	8日目 水	9日目 木	10日目 金
行事等		避難訓練	心臓検診		1年生を迎える会
単元の時間	○持ち物の整理・授業の準備 ○教室の飼育栽培物観察・観察 ○自由帳でお絵かき、読書、折り紙など ※「じゆうじかん」「のんびりタイム」などの名称を付ける方法もあります。				
1	なかよしタイム ○歌・手遊び・リズム遊び(音1/3)×5 ○先生の話・健康観察(学活1/3)×5 ○「おはなし たのしいな」「あつまって はなそう」(国1/3)×5 ※教科の狙いに合致しない活動内容の場合は、「なかよしタイム」(な)として計上する。				
2	わ 「あかるい あいさつ」 ・その場に応じた気持ちのよいあいさつ (礼儀)	算 「なかまづくりとかず」 ・たりのかな(個数の多少を1対1対応の方法で比べる。)	行 心臓検診	わ・チ 「はるがきた」 ・教師に合わせて声を出したり、想像したことを話したりしよう。	国 「どうぞよろしく」 ・1年生を迎える会の練習(自己紹介やよひかけの練習)
3	な 「どうぞよろしく」 ・自己紹介の練習	な 「からだほくしの運動」 ・おにっこ(リザネおに)	国 「どうぞよろしく」 ・自分の名前を書く	わ 「なかよし いっぱいがっこう たんけん」 ・学校を回ってみよう	チ 「なかまづくりとかず」 ・おなじかずのなまかをさがそう。 (歌詞と数字を対応させて、1～5のものを数え取る。)

先生や友達が好きになり、学校に行きたくなる「なかよしタイム」を設定する。安心感をもって人間関係を築いていけるようになります。

生活科を中心とした「わくわくタイム」を設定する。学びに向かい、学びを楽しむ「わくわくタイム」から、教科学習となる「チャレンジタイム」に徐々に移行していきます。
※左表では、「な」「わ」「チ」と表記しています。

1単位時間(45分間)を弾力的に運用し、教科を組み合わせた授業を行うなどの工夫をします。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて

幼児期の生活を通して子供たち一人一人の力を育み、小学校入学後に安心して学校生活をスタートしていくためには、園や学校での発達段階に沿った指導とともに、家庭との連携は欠かせません。

子供の育ちの様子をしっかりと把握しながら、園や学校における指導・援助の内容、家庭での取組について、園や学校と保護者が共通理解を図っていくことが大切です。

園や学校では

○遊びや生活を中心とする幼児教育と教科等の学習を中心とする小学校教育とでは、教育の内容や方法が異なるため、園では「今の学びがどのように育っていくのか」を、小学校では「今の学びがどのように育ってきたのか」を捉え、それらの資質・能力を見通した計画を編成・実施するようにしています。

→『接続期カリキュラム』(幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るために作られるカリキュラムのこと)として、5歳児では「アプローチカリキュラム」、小学校では「スタートカリキュラム」を作成して、幼児期と児童期の「学び」をつなぎます。

○園や学校からは、『接続期カリキュラム』のねらいや活動内容を保護者に伝えます(保護者会、保護者面談、説明会、学校園便り等)。保護者が家庭においても育ちや学びの過程を大切にしていけるように、子供の様子から具体的に伝えるようにします。



家庭では

ご家庭においても、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)」などの視点から、お子さんの育ちをきめ細かに見取り、がんばって取り組んでいる姿を認め、励ましてください。「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」は、年齢に応じた到達目標として5歳児や新1年生が必ず身に付けなければいけない姿ということではなく、方向目標として示されたものです。

お子さんの発達段階に応じて、「10の姿」のそれぞれが様々に育っていることを温かく受け止め、園や学校での接続期カリキュラムを基にした取組を参考にしながら、ご家庭でもお子さんの学びを見守り、さらに伸ばしていくための言葉を掛けてくださるようお願いいたします。



ちいさな芽

子供たちの未来を豊かに!

育てよう ちいさな芽

台東区幼児教育共通カリキュラム 5歳児保護者向けリーフレット

幼児教育は、人間として生きるための『根っこ』の部分育てます!

幼児期は、知的にも情緒的にも、また人間関係の面でも大きく成長・発達する時期です。この時期にふさわしい環境の下で、様々な体験を通して、「生きる力」の基礎になる、人としての「根っこ」の部分育てることが大切です。台東区では、人としてたくましく生きるための強い「根っこ」を育てることを目指して、台東区幼児教育共通カリキュラム「ちいさな芽」を策定し、カリキュラムに基づいた幼児教育を推進しています。



台東区の幼児教育の理念

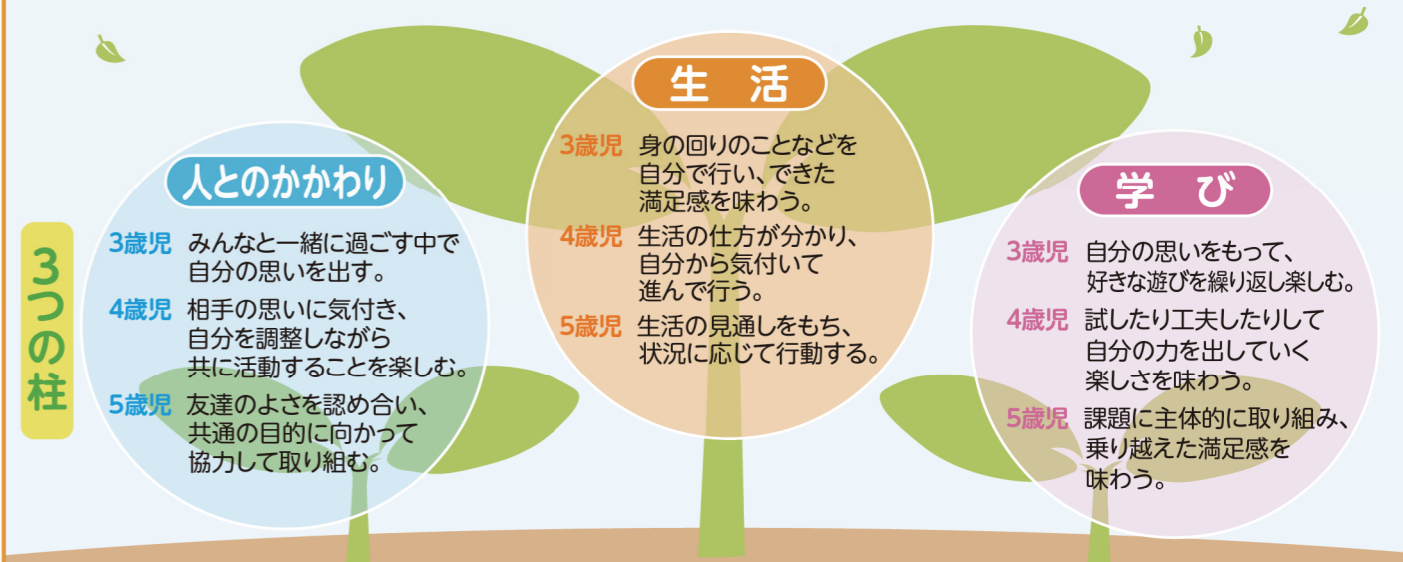
人権尊重の精神に基づき、豊かな生活体験を積み重ねながら、規範意識の芽生えを育て、一人一人のよさと可能性を伸ばしていくことで「生きる力」の基礎を培う。

台東区の幼児教育がめざす子供の姿

- 健やかな心と体を持ち、きまりを守り行動できる子供
- やさしさや思いやりの心を持ち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供
- 自然や身近なことに関心を持ち、自ら考え、豊かに表現する子供

「台東区幼児教育共通カリキュラム ちいさな芽」の特徴

- 「健康な心と体で生活できる力」「相手や状況が分かり、楽しく活動し、協力できる力」「自分で考え、意欲的に遊び、学ぶ力」の3つの力を育てます。
- 「生活」「人とかかわり」「学び」の3つの柱(下記)で指導します。
- 教育課題を重視した6つの取組(下記)を教育・保育に取り入れます。



3つの柱

6つの取組

<h3>規範意識の芽生えの育成</h3> <p>人と折り合いを付けながらきまりを守る必要性を、体験を通して実感することが大切です。</p>	<h3>こころざし教育</h3> <p>人を敬う気持ちや人の役に立つ喜び、やりがいを感じる事が大切です。</p>	<h3>食育</h3> <p>楽しく食事をすることやマナーを身に付けること、食べ物の興味・関心をもつことが大切です。</p>
<h3>体力の向上</h3> <p>遊びの中で多様な動きを経験し、体を動かす楽しさを味わうことが大切です。</p>	<h3>生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</h3> <p>遊びや生活の中で、体験を通して学んだり、生活習慣などを身に付けたりしていくことが大切です。</p>	<h3>地域財産等の活用</h3> <p>昔話や民話、歴史、伝統と文化に親しみ、地域に愛着をもつことが大切です。</p>